



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年11月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社アルファポリス

コード番号 9467 URL <http://www.alphapolis.co.jp/company/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部本部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-0123

四半期報告書提出予定日 平成28年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	1,311	△18.6	79	△83.0	79	△83.1	49	△84.1
28年3月期第2四半期	1,611	29.9	469	20.2	469	22.7	310	23.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	10.20	—
28年3月期第2四半期	64.08	—

(注)潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	4,874	3,861	79.2
28年3月期	5,275	3,812	72.3

(参考)自己資本 29年3月期第2四半期 3,861百万円 28年3月期 3,812百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	△10.3	151	△83.3	150	△83.4	95	△83.4	19.61

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期2Q	4,843,700 株	28年3月期	4,843,700 株
29年3月期2Q	— 株	28年3月期	— 株
29年3月期2Q	4,843,700 株	28年3月期2Q	4,843,700 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(3) 追加情報	5
3. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	7
第2四半期累計期間	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）におけるわが国経済は、政府の経済対策や日銀の金融政策が継続され、企業収益は引き続き堅調に推移し、雇用も安定し、穏やかな回復基調が続きました。しかしながら、英国の欧州連合（EU）離脱問題の影響や新興国経済の減速など、世界経済は依然として先行きに不透明感を残す状況で推移しました。

当社が属する出版業界におきましては、依然として厳しい状況が続いております。出版科学研究所によると、平成28年上半年（平成28年1月～同年6月）の出版物の推定販売金額は、前年同期比2.7%減となる7,701億円となりました。その内訳は、紙の「書籍」が同1.6%増となる4,064億円、「雑誌」は上半期においては過去最大の落込み幅となる同7.1%減の3,637億円となっており、「雑誌」が厳しい状況となっております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新エンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。加えて、出版事業を通して蓄積した自社IP（小説、漫画、キャラクターなど）を活かしたオリジナルゲームを開発・運用する事業にも積極的に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間におけるセグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較は、前年同四半期累計期間の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

① 出版事業

出版事業におきましては、編集部員の増強による書籍化の加速や、当社ビジネスモデルの基幹となるWebサイトの強化に積極的に取り組んでまいりました。その結果、当第2四半期累計期間における、出版点数は219点（前年同期比26点増）となりました。しかしながら、第1四半期会計期間と比較すると収束してきましたが、当第2四半期会計期間においても引き続き『ゲート』関連書籍の返本が発生し、収益を圧迫いたしました。加えて、ライトノベル市場への新規参入が活発化し、競争が激しくなってきたことなどにより、1タイトル当たりの発行部数が減少し、収益性が低下いたしました。

以上により、当事業の売上高は1,150,704千円（前年同期比28.6%減）、セグメント利益は292,439千円（前年同期比53.5%減）となりました。

書籍のジャンル別概況は以下の通りであります。

1. ライトノベル

当社の主力であるライトノベルの市場規模は、書籍市場が縮小傾向にあるにも関わらず、拡大傾向にあります。しかしながら、昨今では新規の参入が活発化し、他社から刊行される点数やレーベルともに増加傾向にあり、競争が激しくなってきました。

その結果、当第2四半期累計期間において、刊行点数は116点と前年同期比12点増となりましたが、発行部数2万部を超える作品は9作品とやや軟調となり、売上高は前年同期を下回る結果となりました。

2. 漫画

『ゲート』関連書籍については、本作TVアニメが平成28年3月末に放送終了したことに伴い、当第2四半期累計期間では、当社の予想を上回る返本が発生いたしました。返本数は、第1四半期会計期間より収束いたしましたが、当第2四半期会計期間においても引き続き多くの返本が発生したことで、収益を圧迫いたしました。一方、『ゲート』以外の漫画の売行きは好調であり、当第2四半期累計期間においては、毎月複数タイトルの増刷を行いました。しかしながら、『ゲート』関連書籍の返本による売上高の低下分を補填することができず、売上高は前年同期を下回る結果となりました。

将来の書籍化の基礎となるWeb連載漫画は堅調に推移しており、当第2四半期累計期間では、新たに14本のWeb連載（内、新シリーズ連載開始の2本含む）を開始し、当第2四半期会計期間末のWeb連載漫画本数は45本となりました。特に、当第2四半期会計期間において、新たに連載を開始した作品には『邪竜転生』など、最新話の更新日には、1日で4.5万アクセスを誇る作品（注）も含まれており、今後の更なる成長の布石を打つことができました。

（注）Web連載漫画『ゲート』の場合、最新話の更新日には、1日で約5.2万人の読者が閲覧しております。

同タイトルを漫画として出版した場合、発行部数は13万部となります。

3. 文庫

啓文堂書店様で実施されておりました、「2016年 雑学文庫大賞」にてアルファポリス文庫『考えすぎない』が大賞を受賞いたしました。その結果、本書籍は、本書提出日現在において20刷、発行部数10.8万部となるヒット作に成長いたしました。

一方、ライトノベルと同様、相次ぐ新規参入により競争が激化していることから、文庫においても1タイトル当たりの発行部数が減少する傾向となりました。加えて、『ゲート』関連書籍については、漫画と同様に当社の予想を上回る返本が発生いたしました。

これらの結果、文庫全体の売上高は、前年同期を下回る結果となりました。

4. その他

当第2四半期会計期間に刊行した『居酒屋ぼったくり』の最新刊・6巻の売行きは引き続き堅調に推移いたしました。また当第2四半期累計期間では、戦略的に強化を行っている「ビジネス」ジャンルから3点の書籍を刊行し、ジャンル拡大に向けて着実に成果をあげることができました。一方、ライトノベルと同様、競争環境は厳しくなっていることから、全体的に収益性は低下いたしました。

その結果、その他全体の売上高は、前年同期を下回る結果となりました。

② ゲーム事業

平成28年2月にリリースいたしましたスマホアプリ『Re:Monster』については、夏に因んだ水着ガチャの投入や、原作小説8巻の刊行に合せた書籍連動イベントの開催、及び傭兵団同士の集団バトルイベント「大戦」のリニューアル版リリースなど、ユーザーの方に楽しんで頂ける施策を多数用意したことで、着実に成長させてまいりました。

また、平成28年4月に正式サービスを開始いたしましたPCブラウザゲーム『ワンモア・フリーライフ・オンライン』については、ユーザーの滞留が期待できる季節のイベントにあわせた企画の実施と同時に新規機能を追加(PvP機能の追加など)することにより、ユーザーに飽きずに楽しんで頂くゲームへと成長させてまいりました。

しかしながら、何れのゲームにおいてもゲーム運営費や広告宣伝費などのコストが重く、当事業の売上高は160,814千円(前年同期は計上なし)、セグメント損失は44,412千円(前年同期は6,092千円のセグメント損失)となりました。

以上の活動の結果、当第2四半期累計期間の売上高は1,311,518千円(前年同期比18.6%減)、営業利益は79,690千円(同83.0%減)、経常利益は79,272千円(同83.1%減)、四半期純利益は49,402千円(同84.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べ414,082千円減少し、4,522,141千円となりました。これは主に、売上高の減少に伴う売掛金の減少(前事業年度末比374,880千円減)に加え、法人税等の支払等に伴う現金及び預金の減少(前事業年度末比51,121千円減)によるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ13,685千円増加し、352,764千円となりました。これは主に、『ゲート』TVアニメ製作委員会から分配金を受領したことにより、投資その他の資産が減少(前事業年度末比17,446千円減)する一方で、ゲーム等のソフトウェア制作費を計上したことにより無形固定資産が増加(同32,086千円増)したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ431,433千円減少し、953,582千円となりました。これは主に、法人税等の支払いに伴う未払法人税等の減少(前事業年度末比220,542千円減)及び、売上高の減少に伴う返品調整引当金(前事業年度末比78,829千円減)、及び未払金(前事業年度末比83,168千円減)の減少によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ18,366千円減少し、59,551千円となりました。これは全て、借入金の返済に伴い長期借入金が増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ49,402千円増加し、3,861,771千円となりました。これは全て、四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における、現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べ51,121千円減少し、2,521,343千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは55,120千円の収入（前年同期は37,150千円の収入）となりました。主な増加要因は、税引前四半期純利益の計上及び、売上債権の減少によるものであります。また、主な減少要因は、返品調整引当金及び未払金の減少、並びに法人税等の支払によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは80,255千円の支出（前年同期は48,791千円の支出）となりました。これは、『ゲート』TVアニメ製作委員会から分配金を受領したことによる出資金の回収による収入と、スマホ用ゲーム等のソフトウェアの制作費等による無形固定資産の取得による支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは25,986千円の支出（前年同期は33,176千円の支出）となりました。これは全て、長期借入金の返済によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の業績予想につきましては、平成28年5月12日に公表いたしました数値を修正しております。

詳細につきましては、本日（平成28年11月10日）公表いたしました「第2四半期（累計）業績予想と実績との差異・通期業績予想の修正、及び役員報酬の減額に関するお知らせ」をご参照ください。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

（税金費用の計算）

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計方針の変更）

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期累計期間の損益に与える影響はありません。

(3) 追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期会計期間から適用しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,572,464	2,521,343
売掛金	2,039,382	1,664,501
製品	179,771	185,671
仕掛品	74,724	79,306
その他	69,880	71,318
流動資産合計	4,936,223	4,522,141
固定資産		
有形固定資産	11,061	10,106
無形固定資産	222,034	254,121
投資その他の資産	105,981	88,535
固定資産合計	339,078	352,764
資産合計	5,275,301	4,874,905
負債の部		
流動負債		
買掛金	84,627	60,802
1年内返済予定の長期借入金	51,272	43,652
未払金	440,513	357,345
未払法人税等	250,411	29,869
賞与引当金	16,986	18,843
返品調整引当金	491,730	412,901
その他	49,474	30,168
流動負債合計	1,385,016	953,582
固定負債		
長期借入金	77,917	59,551
固定負債合計	77,917	59,551
負債合計	1,462,933	1,013,133
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	2,094,720	2,144,122
株主資本合計	3,812,368	3,861,771
純資産合計	3,812,368	3,861,771
負債純資産合計	5,275,301	4,874,905

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
売上高	1,611,532	1,311,518
売上原価	628,382	615,346
売上総利益	983,150	696,172
返品調整引当金戻入額	433,175	491,730
返品調整引当金繰入額	482,451	412,901
差引売上総利益	933,873	775,001
販売費及び一般管理費	464,183	695,311
営業利益	469,689	79,690
営業外収益		
受取利息	224	22
中小企業倒産防止共済前納減額金	53	-
営業外収益合計	277	22
営業外費用		
支払利息	698	440
その他	26	-
営業外費用合計	724	440
経常利益	469,242	79,272
特別利益		
保険解約返戻金	30,593	-
特別利益合計	30,593	-
税引前四半期純利益	499,835	79,272
法人税等	189,437	29,869
四半期純利益	310,398	49,402

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	499,835	79,272
減価償却費	2,708	48,613
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,705	1,857
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	49,276	△78,829
受取利息及び受取配当金	△224	△22
保険解約返戻金	△30,593	-
支払利息	698	440
売上債権の増減額 (△は増加)	△242,544	374,880
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△52,239	△10,481
仕入債務の増減額 (△は減少)	△25,560	△23,825
未払金の増減額 (△は減少)	34,253	△60,505
その他	△36,108	△25,973
小計	201,207	305,426
利息及び配当金の受取額	224	22
利息の支払額	△698	△440
保険解約による収入	30,593	-
法人税等の支払額	△194,175	△249,888
営業活動によるキャッシュ・フロー	37,150	55,120
投資活動によるキャッシュ・フロー		
無形固定資産の取得による支出	△48,791	△100,949
出資金の回収による収入	-	20,694
投資活動によるキャッシュ・フロー	△48,791	△80,255
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△33,176	△25,986
財務活動によるキャッシュ・フロー	△33,176	△25,986
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△44,816	△51,121
現金及び現金同等物の期首残高	2,475,383	2,572,464
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,430,566	2,521,343

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	出版事業	ゲーム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,611,532	—	1,611,532	—	1,611,532
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,611,532	—	1,611,532	—	1,611,532
セグメント利益又は損失(△)	628,255	△6,092	622,162	△152,472	469,689

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△152,472千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	出版事業	ゲーム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,150,704	160,814	1,311,518	—	1,311,518
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,150,704	160,814	1,311,518	—	1,311,518
セグメント利益又は損失(△)	292,439	△44,412	248,026	△168,336	79,690

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△168,336千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更に関する事項

第1四半期会計期間より、報告セグメントを従来の単一セグメントから、「出版事業」及び「ゲーム事業」の2区分に変更しております。

なお、前第2四半期累計期間のセグメント情報は、当第2四半期累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。